

# 平成25年度施策評価シート

基本施策	便利で快適な道路環境を整備する		
総合計画での位置付け	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	分野	3	道路・交通
主要な計画	・地域公共交通総合連携計画 ・駐車場整備計画 ・橋りよう長寿命化修繕計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・日本一広大な面積を有する本市においては、各地域間を円滑に結ぶ道路網の整備は、市域の一体感の醸成に必要不可欠である。平成20年に東海北陸自動車道が全線開通し、中部圏や北陸圏からの本市への道路利便性が大幅に向上したことにともない、観光客などの交流人口が大幅に増加する一方、市中心部などにおいて渋滞が発生している。</p> <p>・本施策は、豊かで美しい自然のなかで、飛騨地域の中核都市として利便性の高い都市的サービスを受けながら安全で快適な暮らしを実感できる「すみよさ」のあるまちづくりをすすめるため、便利で快適な道路環境を整備することを目的としている。</p>		

## 1 概要

施策	目的	施策の内容	対象	施策の内容の目的	これまでの取り組み	担当部署
1 機能的な道路ネットワークの形成	近隣市村や市内各地域間における人、物の円滑な移動が可能となるよう、機能的な道路ネットワークの形成を図る。	ア 高速交通網の整備促進	市民及び道路交通網の利用者	基幹高速交通網が接続され、新たな動線の活用により、人、物の円滑な移動ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海北陸自動車道4車線化について、事業化決定権者の国に対し事業化の要望している。また、事業実施者の中日本高速道路㈱に対し事業化区間の早期完成を要望している。</li> <li>・中部縦貫自動車道の整備について、事業主体の国に要望している。</li> <li>・国事業の地元合意形成に協力し、用地取得は一部市が代行している。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施している。</li> </ul>	基盤整備部
		イ 地域間の道路交通の円滑化を図る地域間連絡道路網(環状道路や放射状道路)の整備推進	市民及び道路交通網の利用者	隣接市町村及び市内地域間相互の移動が安全、快適となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業主体の国に対し、高山下呂連絡道路(宮峠トンネル、石浦バイパスを含む)、高山国府バイパス、富山高山連絡道路の整備推進を要望している。</li> <li>・事業の地元合意形成に協力し、用地取得は一部市が代行して行っている。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施している。</li> </ul>	基盤整備部
		ウ 市域の一体感の醸成に向けた主要幹線道路となっている国・県道の整備促進	市民及び道路交通網の利用者	市内地域間の移動が安全、快適となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業主体である国・県に対し、国道41号、156号、158号、257号、361号、471号及び県道岩井高山停車場線他の整備促進を要望している。</li> <li>・事業の地元合意形成に協力している。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施している。</li> </ul>	基盤整備部
		エ 市街地中心部の道路交通の円滑化を図る都市計画道路や内外環状道路網の整備	市民及び道路交通網の利用者	市街地内の移動が安全、快適となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路昭和中山線及び西之一色花岡線の整備を行っている。</li> <li>・内環状線である市道千島線の整備を行っている。</li> </ul>	基盤整備部
2 生活に身近な道路の整備	誰もが安全で快適に利用できる生活道路の整備を図る。	ア 市道の整備と適正な管理	市民及び道路交通網の利用者	市内各地域内の移動が安全、快適となる。 道路、橋りよう施設等を良好な状態で利用できるよう道路台帳を整備して管理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市道花岡上岡本線や塩屋見座線他の整備を行っている。</li> <li>・道路法に基づき、道路台帳を整備することで適正な道路の管理を行っている。</li> <li>・町内要望、パトロール等から修繕が必要と判断した路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修し、安全性・利便性の確保に努めている。</li> </ul>	基盤整備部
		イ ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい道路の整備	市民及び道路交通網の利用者	誰もが安全で快適に利用できる環境づくりに向け、道路施設のバリアフリー化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既設側溝改修、路側帯のカラー舗装、歩道の段差解消、グレーチング蓋の細目化等の道路施設バリアフリー化整備及び融雪ブロック、知らせる明かり等の歩行者移動支援施設整備を進めている。</li> </ul>	基盤整備部

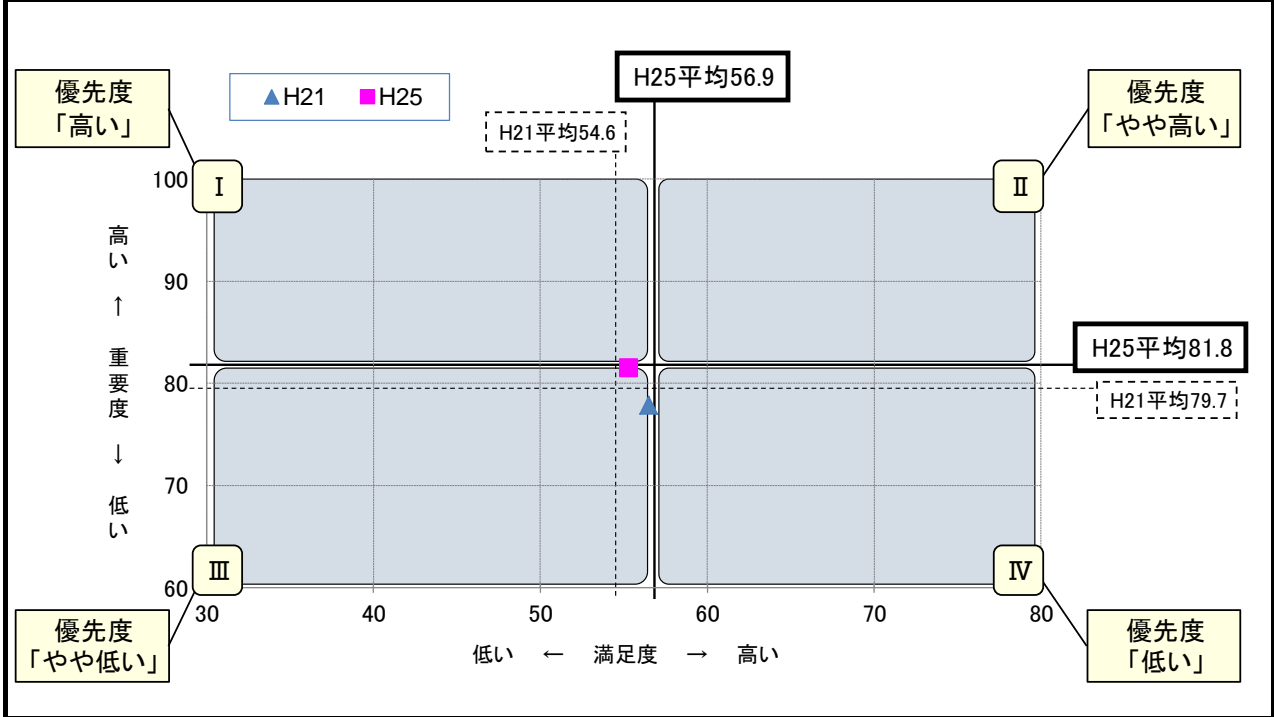
			ウ	景観と調和した親しみのもてる道路の整備	市民及び観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に交流の場の提供し、コミュニティが育まれる</li> <li>・歴史的風致を活かした空間が創出される</li> <li>・美しい景観の保全・創出がされる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横丁・周遊路整備による沿道修景により、景観と調和した親しみのもてる道路整備を行っている。</li> <li>・道路沿いの生けがき設置に対する補助により、沿道空間の緑化を促進している。</li> <li>・既存街路樹の適正な剪定等により、景観及び周辺住民の生活に配慮した管理を行なっている。</li> </ul>	基盤整備部
3	橋りょうの整備	老朽化したものも含め、橋りょうを安全に通ることができる状態を維持する。	ア	老朽化した橋や耐震性能が劣る橋の架け替えや耐震補強整備	市民及び道路交通網の利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時、動線が確保され、人、物が継続して移動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋長15m以上の橋りょうについて「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」を策定し、架け替えや耐震補強及び長寿命化修繕を実施している。</li> <li>・橋長15m未満の橋りょうについても、緊急輸送道路に掛かる橋りょうや孤立集落対策の橋りょう、及び交通量の多い橋りょう等、重要性の高い橋りょうについて順次整備を実施している。</li> </ul>	基盤整備部
4	道路利用環境の向上	市中心部の渋滞緩和や道の駅の機能強化など便利で快適な道路の利用環境の整備を図る。	ア	駐車場案内情報の充実	市民及び観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを利用した駐車場情報の提供により、高山祭などでの観光客の利便性を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市ホームページに駐車場情報を掲載し、満車・空車情報等の最新情報での利用が可能となっている。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク期間中に案内看板の設置、FMラジオでの情報発信等を行っている。</li> </ul>	基盤整備部
			イ	駐車需要の一時的な増大に対するシャトルバスの運行や臨時駐車場の設置	市民及び観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山祭などで臨時駐車場の開設により市内の渋滞緩和を図るとともに、観光客の利便性を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間に臨時駐車場の開設し、交通整理員の配置やシャトルバスの運行等を行っている。</li> </ul>	基盤整備部
			ウ	市街地における交通渋滞対策についての検討	市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を支える市民の足としての役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動制約者の移動手段として、1乗車100円の自主運行バス「のらマイカー、まちなみバス」を運行している。</li> <li>・市街地の市営駐車場とまちなみバスの関連性を調査した。</li> </ul>	企画管理部
			エ	道の駅がもつ道路情報や観光情報などの発信機能、休憩機能、販売機能の強化の推進	市民、観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営駐車場を適正に管理運営することで、駐車場利用者の利便性の向上と市内の渋滞緩和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通網の整備による交通量の増加や経路変化等による駐車場利用状況を調査・検討し、市営駐車場の適切な管理・運営を行っている。</li> </ul>	基盤整備部
			エ	道の駅がもつ道路情報や観光情報などの発信機能、休憩機能、販売機能の強化の推進	市民、観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や観光客が必要とする道路・観光情報が入手でき、休憩所、地元特産品の販売所として多くの方に利用される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各道の駅において道路情報や観光情報などを提供するとともに、道の駅付帯施設において新鮮な地元野菜や特産品を市民、観光客に販売し、地域の拠点施設として有効に機能している。</li> </ul>	商工観光部

## 2 指標の推移

指標名	単位	関連施策	好ましい方向	H21	H22	H23	H24	目標	指標値の把握方法 目標値設定の考え方
道路台帳更新路線数	本	2-ア	↑	169	169	176	170	170	・道路台帳の更新路線数 ・道路整備完了箇所や占用物変更箇所数で設定
歩行空間整備(バリアフリー)	m	2-イ	↑	653	935	780	543	540	・歩行空間整備の実施延長 ・計画に基づいた整備延長で設定
歩行者移動支援施設整備(知らせる明かり)	交差点	2-イ	↑	14	6	4	4	4	・歩行者移動支援施設整備の実施箇所数 ・計画に基づいた整備箇所数で設定
横丁整備延長	m	2-ウ	→	329	1,134	504	353	-	年度計画に基づき整備延長の目標値を設定していた。当該事業はH24年度で完了した。
臨時駐車場開設	箇所	4-ア 4-イ	↓	15	15	15	13	13	・臨時駐車場開設箇所 ・高山祭りやGW等の観光客入込み状況により開設箇所等を設定
1便あたり平均利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	3.1	3.8	-	・前年度より利用者数を増やす
延べ利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	179,882	173,611	200,000	・市民1人につき平均2回以上乗車
まちなみバス 1便あたり平均利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	3.9	4.8	-	・前年度より利用者数を増やす
まちなみバス 延べ利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	33,855	34,790	-	・前年度より利用者数を増やす
道の駅施設利用者	人	4-エ	↑	953,231	930,037	885,259	877,734	1,000,000	H19年度の道の駅7施設のレジ通過者数等をもとに設定
担当部局	補足説明								
基盤整備部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地における交通渋滞対策については、市営駐車場の維持管理を指定管理(市商連・施設公社・地場産センター)により行っており、実績報告書等により利用状況の調査・検討を行っている。</li> <li>・橋りょう整備数は、H23に橋りょうの適切な維持管理を目的とした「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」を策定。橋長15m以上の橋りょう整備は本計画に基づき実施している。</li> <li>・横丁整備については、景気対策にて追加発注したH22以外は、ほぼ平年並みの整備延長にて実施。</li> </ul>								
商工観光部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅施設利用者数は、奥飛騨温泉郷の道の駅を除く7箇所の道の駅付帯施設のレジ通過者数等の合計</li> </ul>								
企画管理部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的、効果的な運行となるための見直しを行い、1便あたりの平均利用者数が増加した。</li> </ul>								

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21 (前回)	点数	56.5	(平均) (54.6)	77.8	(平均) (79.7)	IV	低い
	順位	42施策中 16 番目		42施策中 25 番目			
H25 (今回)	点数	55.3	(平均) (56.9)	81.5	(平均) (81.8)	III	やや低い
	順位	43施策中 29 番目		43施策中 25 番目			



※「満足度」、「重要度」・・・まちづくり市民アンケートに対する各項目の回答件数をもとに点数化した数値

$$\text{満足度} = \frac{(\text{満足}) \times (50) + (\text{やや満足}) \times (25) + (\text{やや不満}) \times (-25) + (\text{不満}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{重要}) \times (50) + (\text{やや重要}) \times (25) + (\text{あまり重要でない}) \times (-25) + (\text{重要でない}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

※市民満足度を高めるために改善等を行う優先度

「満足度」が平均未満で「重要度」が平均以上の施策	→	I 優先度が「高い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均以上の施策	→	II 優先度が「やや高い」
「満足度」が平均未満で「重要度」が平均未満の施策	→	III 優先度が「やや低い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均未満の施策	→	IV 優先度が「低い」

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		企画管理部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
道路利用環境の向上	市街地における交通渋滞対策についての検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地の市営駐車場とまちなみバスの関連性を平成24年に調査したが、徒歩で移動できてしまう高山の市街地においては、パークアンドライド方式は馴染みにくいものと推察された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主運行バスの利用者増が、市街地の交通渋滞対策の一因となるよう取り組んでいく。</li> </ul>
総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>自主運行バスは、高山の市街地での交通渋滞対策に馴染みにくいのが、効率的、効果的な運行となるよう必要な改善は行ってきた。</li> </ul>	

担当部局		商工観光部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
道路利用環境の向上	道の駅がもつ道路情報や観光情報などの発信機能、休憩機能、販売機能の強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各道の駅において道路情報や観光情報などを多くの市民、観光客に提供するとともに、道の駅付帯施設において新鮮な地元野菜や地元特産品を提供したが、利用者数は減少傾向にある。</li> <li>一部の道の駅では採算性が悪化している施設もあり、利用者のニーズ等を踏まえ、経営改善に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある新商品開発やサービスの充実を図り、地域活性化の拠点施設としての機能を更に強化していく必要がある。</li> <li>採算性が悪化している施設もあるため、利用者のニーズに即した事業展開、経営改善をすすめる必要がある。</li> </ul>
総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民アンケートにおいては、施策に対する満足度が低く、今後の重要度もやや低い順位に位置している。</li> <li>しかし、支所地域においては過疎化が進行しており、地域の魅力、情報を広く発信できる拠点施設の役割は今後も重要である。</li> <li>地域の魅力を発信し続ける施設として安定して継続運営できるよう、常に独自の商品開発や経営改善等に取り組む必要がある。</li> <li>将来的には、補助金、起債等の整理を行うとともに、施設管理者の経営基盤の強化を図り、施設の設置目的が継続可能な安定した経営基盤が確立され、譲渡が可能となる施設については、譲渡を視野に入れて検討する。</li> </ul>	

担当部局		基盤整備部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
機能的な道路ネットワークの形成	高速交通網の整備促進	・H19に中部縦貫自動車道高山ICが開通され、新たな動線が確保されたことにより、人、物の円滑な移動ができた。	・着手事業の促進及び、未定の丹生川IC～平湯トンネル間のルート決定に向け、継続して要望活動を実施する。 ・継続して地元合意形成や用地取得に協力して当たり、事業の早期完成を目指す。
	地域間の道路交通の円滑化を図る地域間連絡道路網(環状道路や放射状道路)の整備推進	・H25に高山国府バイパス(上切町～国府町金桶間)開通により、隣接市町村及び市内地域間相互の移動が安全、快適となった。	・継続して要望活動を実施する。 ・継続して地元合意形成や用地取得に協力して当たり、事業の早期完成を目指す。
	市域の一体感の醸成に向けた主要幹線道路となっている国・県道の整備促進	・国道361号上ヶ洞トンネル、主要地方道国府見座線は継続して、改良工事が進められている。 ・岩井高山停車場線はH25に完成し、市内地域間の移動が安全、快適となる。	・継続して要望活動を実施する。 ・継続して地元合意形成に協力して当たり、事業の早期完成を目指す。
	市街地中心部の道路交通の円滑化を図る都市計画道路や内外環状道路網の整備	・都市計画道路昭和中山線の整備がH25に完成し、市街地内の移動が安全、快適となる。 ・都市計画道路西之一色花岡線の整備を進めているが、一部地権者との交渉が難航している。	・H29の高山駅周辺土地区画整理事業の完成に合わせて、西之一色花岡線を含む駅周辺の都市計画道路の整備を進める。 ・市道千島線を含む環状道路網の整備を進める。
生活に身近な道路の整備	市道の整備と適正な管理	・市道花岡上岡本線(第2校踏切)、市道塩屋見座線、市道下林下岡本線、市道千島松本線(合崎橋)の完成により、市内各地域内の移動が安全、快適となる。 ・道路整備完了箇所や占用変更箇所を台帳に反映して、適正な管理を行っている。 ・町内要望のデータベース化により、緊急性・重要性・事業費・実施時期等を管理し、優先順位の高い路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修している。	・整備の必要性、緊急性が高い道路を選定し、計画的且つ集中的に整備を進める。 ・道路台帳管理は、道路を適正に管理するため必要であり、継続して業務委託を実施する。 ・引き続き、町内要望のデータベース化により、緊急性・重要性・事業費・実施時期等を管理し、優先順位の高い路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修していく。
	ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい道路の整備	・市街地の限られた道路用地の中で歩行空間を確保し、歩車共存型道路を整備している。	・工法や資材においてコスト縮減に取り組み、引き続き計画的に整備を進める。

	<p>景観と調和した親しみのもてる道路の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横丁・周遊路整備による沿道修景により、景観の調和及びコミュニティ機能の拡充が図れた。</li> <li>・無電柱化事業については、高額な費用を要するが、その都度、関係事業者との協議を行ない技術的可否や費用負担を検討した上で事業化が決定され、実施してきた。良好な歴史的景観が形成された。</li> <li>・生けがき補助を継続して実施し、市街地の沿道に緑化空間を創出した。</li> <li>・街路樹については、剪定等の管理は行なっているが、樹形が大きくなりすぎたことによる根上りがあり周辺環境に負荷をかけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無電柱化事業については、大規模事業に合わせ、その都度実施について検討を行なうことで推進を図る。</li> <li>・生けがき等補助事業は制度の周知を図り、継続することで市街地沿道の緑化を推進していく。</li> <li>・街路樹については、木単体ではなく、通り全体の景観と生活に配慮した管理方法を検討し適切な樹木管理を行っていく。</li> </ul>
<p>橋りょうの整備</p>	<p>老朽化した橋や耐震性能が劣る橋の架け替えや耐震補強整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋長15m以上の橋りょうについて、H24までに、「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」を策定している47橋の内、13橋の整備が、また、橋長15m未満の橋りょうについて、H22以降、23橋の整備が完了し、常時、動線が確保され、人、物が継続して移動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30前後に現在の長寿命化修繕計画が完了することから、H28を目途に次期計画を策定する。</li> <li>・15m未満の橋りょうは、今後も交通量が多い等の重要性等を考慮し、順次整備する。</li> </ul>
<p>道路利用環境の向上</p>	<p>駐車場案内情報の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市ホームページに駐車場情報を掲載し、満車・空車情報等の最新情報を発信している。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間中に渋滞対策本部を維持課に設置している。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク期間中に案内看板、交通誘導員を設置している。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク期間中にFMラジオでの情報発信を行っている。</li> <li>・ホームページで利用できる駐車場情報の改良が必要となる。</li> <li>・誰もが解りやすい案内や使いやすい情報の充実に図ることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在ホームページで提供している駐車場情報システム改良を行い、利便性の向上を図る。併せて民営駐車場の情報提供が可能であるか検討する。</li> <li>・観光客や市民に解りやすい標示や設置場所に配慮した誘導看板の設置を行う。</li> </ul>
	<p>駐車需要の一時的な増大に対するシャトルバスの運行や臨時駐車場の設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間の臨時駐車場の開設等により、市内の渋滞緩和と観光客利便性の向上を図っている。</li> <li>・渋滞予測から臨時駐車場のシャトルバス本数などを見直し、コスト縮減に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間の臨時駐車場の開設等により、市内の渋滞緩和と観光客利便性の向上を図る。</li> <li>・大型バスの乗り入れ規制や臨時駐車場開設時間など効果的・効率的な開設方法について検討し、コスト縮減を図る。</li> </ul>
	<p>市街地における交通渋滞対策についての検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部縦貫自動車道高山ICの開通等による交通量の増加や経路変化等による駐車場利用状況を調査・検討し、市営駐車場の適切な管理・運営を行っている。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク等には混雑するが、平日の利用客は年々減少傾向にある市営駐車場もあるため、存続を含め経費削減が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内民営駐車場の現状を調査し、高山市駐車場整備計画に基づき適切な市営駐車場の管理運営を行うため、市営駐車場のあり方を検討するとともに、コスト縮減を図る。</li> </ul>
<p>総括</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートにおいては、施策に対する満足度、今後の重要度ともにやや低い値が示されているが、重要度については前回よりも3.6ポイント増え市民の道路環境整備への関心が増していることから、重点的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・高速道路網機能の拡大にむけた要望活動や、市街地と地域間の連絡道路の確保、特定日における渋滞対策を実施し、生活基盤として不可欠な道路環境の整備により、すみのさのあるまちづくりに取り組む。</li> </ul>	

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京方面への道路アクセス環境の整備が遅れている。</li> <li>・市道について、多額の維持管理費用が必要である。</li> <li>・利用者が減少している市営駐車場がある。</li> <li>・道の駅施設利用者が減少している。</li> </ul> <p>といったことが上げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する今後の重要度はやや低くなっているが、現在の満足度がやや低いことを踏まえ、着実に道路環境の整備を図っていく必要がある。</p> <p>特に、東京方面へのアクセス性を高める道路整備を強く国に要望していく必要がある。</p> <p>また、道路整備には多額の費用を要することから、長寿命化に視点をおいて、優先度(効果や効率性)の高い路線を整備する必要がある。</p> <p>さらに、市営駐車場や道の駅施設については、個々の利用状況や民間施設との関連性等を詳細に分析したうえで、今後のあり方について再検討する必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・二次評価で課題の1番目に挙げられている「東京方面への道路アクセス環境が遅れている」を解消するためには、高山市単体での取り組みでは達成が困難であり、国による今後の整備計画を踏まえた場合、あえて課題として「東京方面への道路アクセス環境の向上」を掲げる必要があるのかを精査すべきである。</p> <p>・道路整備については国に関わる幹線道路、生活道路に分けて課題設定を行い、より詳細な検討を要するほか、その他の事業についても市民生活にどのように影響するのかについての検証が不可欠である。</p>
今後の方向性に対する評価・意見
<p>・基本施策を実施する背景や課題・目的の中に、「市中心部における交通渋滞の発生」とあるが、これに対応すると考えられる施策が「市営駐車場の適切な管理・運営」では不十分である。また、二次評価では、「長寿命化に視点をおき、優先度の高い路線を整備する必要」が指摘されているが、本来は市全体から見た緊急度・重要度に応じた道路ネットワークの整備や既存路線の機能向上に向けた拡幅整備等が方向性として考えられる。</p>
その他の意見
<p>・都市計画道路に代表される「幹線道路」、それ以外の市民生活に身近な「生活道路」及び「道路利用環境」の3つに大別し、目指すべき姿を適切に設定した上で、その実現に向けた阻害要因を詳細かつ具体的に分析し、それを踏まえた具体的な課題が示されることが必要である。その上で課題を踏まえ、時期・定量的な水準・具体的な質やレベルなどを伴った当面の目的・目標とその達成時期を設定の上、次期総合計画期間中の目指す目標とその実現に向けた施策を設定することが必要である。</p>



【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成25年度事業評価における担当課評価)

関連 施策	事業 コード	事業名	評価					点数	事業費決算額(千円)	
			市民ニ ズの確 認	市が実 施する必 要性	活動内 容の有 効性	執行方 法の効 率性	政策面 における 評価		H23年度	H24年度
1-ア、イ、ウ	74401	中部縦貫自動車道等推進事業費	A	A	B	B	A	80	1,136	1,115
1-エ	74310	街路事業費	A	A	B	B	A	80	45,054	270,135
2-ア	72100	道路橋りょう管理事務費	A	A	A	B	A	90	60,451	63,125
2-ア	72110	道路台帳管理費	A	A	A	A	A	100	15,901	12,357
2-ア	72200	道路橋りょう維持修繕費	A	A	A	B	A	90	1,204,505	1,054,262
2-ア、3-ア	72300	道路新設改良事業事務費	A	A	B	B	A	80	1,965	1,749
2-ア、3-ア	72310	道路新設改良事業費	A	A	B	B	A	80	617,722	620,568
2-ウ	74720	歴史的環境保全整備事業	A	A	B	B	A	80	39,660	29,681
4-イ	72440	臨時駐車場対策事業費	A	A	A	B	A	90	19,667	19,074
4-ウ	74800	駐車場管理費	A	A	A	A	A	100	35,698	33,170
4-ウ	21600	総合交通対策事業費	A	A	B	B	A	80	271,212	218,607
4-エ	61180	道の駅管理事業	A	A	B	A	A	90	45,929	45,732
4-エ	61183	ウッドフォーラム飛騨管理事業費	A	A	B	B	A	80	8,556	8,323

集計	区分	個数					平均点	H23年度	H24年度
	A	13	13	5	3	13	86.15	2,367,456	2,377,898
	B	0	0	8	10	0			
	C	0	0	0	0	0			
	-	0	0	0	0	0			